

1989年

裕仁天皇薨去、明仁親王が天皇に即位、元号が平成に。消費税実施。竹下内閣退陣、宇野内閣瓦解、海部内閣が成立。ペルリンの壁が撤去されたのははじめ東欧の社会主義諸国が相次いで崩壊、米ソ両国首脳によって「東西冷戦の終結」が宣言されるなど、世界歴史の転換した年であった。中国は建国四十周年に当たたる年、胡耀邦前総書記の死去を機に民主化要求の運動が高揚したが、六月四日天安門広場での民主化要求デモが戒厳部隊によって制圧され、趙紫陽氏が失脚、江沢民氏が総書記に就任。北京訪問中の水上勉氏を団長とする当協会代表団は「六・四事件」に遭遇、旅程を短縮、帰国した。

（八九年の主な交流）
 ◎2月 日本演劇評論家訪中団（野村喬団長、森秀男、加藤新吉、田之倉稔、鴻英良、瀬戸宏、西谷雅英の諸氏）訪中。

◎3月 歌舞伎・京劇の初の合同公演「リュウオウ（龍王）」東



来日した中日友好協会副会長で詩人の林氏を囲み、歓談する井上靖会長（前左一）、千田是也代表理事（前右二）、杉村春子常任理事（前右三）、大庭みな子（前右一）、高原須美子（後左）、山口淑子（後右）の諸氏

一九八九年九月二十日 東京・歓迎レセプション



協会代表団の水上勉団長（右二）、尾崎秀樹氏（右一）らは、児童文学者で日本文化界に友人知人が多い巖文井氏（左三）を自宅に訪ね旧交を温めた。康志強夫人と令嬢（左一、二）、鮑延明氏（右三）と。同代表団は、北京滞在中、天安門事件に遭遇した

——1989年6月2日 北京

京・新橋演舞場で開幕（製作・松竹、後援・当協会など）。「第二回日中婦人書道交流展」（主催・中国書法家協会、日本書道院、当協会）北京で開幕。同展訪中団（田中竹園団長）訪中。北京で初の日中定型詩シンポジウム（当協会、中国人民対外友好協会、日本定型詩人代表団、中華詩詞学会主催）を開催、訪中代表団（近藤芳美団長、中野菊夫、金子兜太副団長）訪中。日本経済人代表団（山下静一団長、浅野大日本新都市開発社長、木戸孝彦・弁護士、荒木浩東京電力常務、澤村三郎才オバ顧問、小野俊夫日さく顧問、木村美智子秘書、随員・齋藤公博の諸氏）訪中。

◎4月 李鵬総理来日、東京で当協会など日中友好六団体が歓迎レセプション。日本産業界代表団（小山五郎団長・三井銀行名誉会長、中田乙一三菱地所相談役、鈴木治雄昭和電工名誉会長、綿森力日立製作所顧問、佐古一大成建設会長、宮崎八百一朗新日鐵常任顧問、住吉弘人コスモ石油社長、山崎富治山種証券社長、鶴田卓彦日経新聞副社長、犬井圭介全日空副社長、河野雅明三菱地所秘書課、牧満三井銀行秘書課、秘書・木村美智子らの諸氏）訪中。東京で「王炳南先生を偲ぶ会」開催。日本「中国曲芸鑑賞」訪中団（岡本文弥団長、川上桂司秘書長、吉川英史、内海弘子、尾上兼英らの諸氏）訪中。

◎5月 中国作家代表団（蔣子龍団長、管樺、敖斯爾、林希、陳喜儒の諸氏）来日。出光美術館所蔵の名品による「陶磁の道 中国、日本、中東、ヨーロッパの間の陶磁交流展」（主催・出光美術館、故宮博物院。後援・当協会、中国国家文物局）を北京・故宮博物院で開催。開幕式に出光昭介、白土吾夫らの諸氏が出席。

◎6月 日中文化交流協会代表団（水上勉団長、白土吾夫副団長、鈴木治、尾崎秀樹、佐藤純子、河原崎長一郎、中村堯子の諸氏）訪中。一行は北京滞在中「天安門事件」に遭遇、予定を繰り上げ日本航空臨時便で帰国。

◎9月 林氏（中日友協副会長）来日。日本演劇家代表団（阿部廣次団長、工藤次雄、楠本章介、佐藤恭子、来路史圃、関輝雄、原信之の諸氏）訪中。

◎10月 「日中刻字交流展」長沙で開催、開幕式に日本刻字協会訪中団（渡辺寒鷗団長）が出席。日本文化界囲碁代表団（江崎誠致団長、竹之内静雄、伊藤礼、斎藤直郎、笠原淳、大門武一、大島正雄、中野暁、馬場隆の諸氏）訪中。

◎11月 中国映画祭、89、東京で。中国「美術評論家」代表団（王朝聞団長、湯池、夏碩琦、楊悅浦、馬鴻増、賈方舟、陶勤通訳の諸氏）来日。「第二回日中婦人書道交流展」東京展、開幕に中



日本産業界代表团が訪中 張徳勤国家文物局長(左三)、故宮博物院の張忠培院長(右五)、馮先銘教授(右一)から同院所蔵の「清明上河図」の説明を受ける小山五郎団長はじめ中田乙一、鈴木治雄、宮崎八百一郎、住吉弘人、山崎富治、鶴田卓彦、犬井圭介らの諸氏

—1989年4月28日 北京



出光美術館収蔵の陶磁器名品を展覧する「陶磁の道—中国、日本、中東、ヨーロッパの間の陶磁交流」が、北京の故宮博物院で盛大に開催された。開幕式でありさつを述べる出光昭介館長(左二) —1989年5月4日



北京で初めての日中定型詩シンポジウム 近藤芳美氏を団長、金子兜太氏らを副団長とする歌人、俳人からなる日本定型詩人代表团二十名が訪中、中国詩歌界の人士らと交流し両国の定型詩についての相互理解を深めた

—1989年3月16日 北京・対外友協連堂



古い友人でもある中国音楽界の重鎮趙滷(左二)、李徳倫(右二)、農耕(右一)らの諸氏と歓談する團伊玖磨協会代表团団長

—1989年12月30日 北京



中国「美術評論家」代表团が来日 洋画家の利根山光人氏(左一)のアトリエを訪れた王朝聞団長(右三)、賈方舟(右一)、楊悦浦(右二)、陶勤(右四)の諸氏。桑原住雄氏(左二)と

—1989年11月12日 東京



この年の3月、日中演劇交流史上初めての歌舞伎と京劇の合同公演「リュウオー(龍王)」が実現した。前の年に行なわれた製作発表会に臨む永山武臣松竹社長(右三)、市川猿之助氏(右二)、奈河彰輔氏(右一)、中国京劇院の呂瑞明院長(左三)、李光氏(左二)、宋鋒氏(左一)

—1988年6月27日 東京

国婦人書道家代表团(廖静文団長)来日。「第六回日中テレビ祭」東京で。中国人民対外友好協会の会長に韓叙氏が就任。

◎12月 作家・春名徹、入江曜子夫妻ら訪中取材。日本中国文化交流協会代表团(團伊玖磨団長、杉村春子顧問、白土吾夫副団長、團和子、池内央、佐藤純子、横川健の諸氏)訪中。

日本も、中国も、世界も、激動の一年だった。六月四日、刻々とテレビが伝える天安門広場の状況、流言飛語と真実とに挟まれた特派員の引きつった顔、果ては戒厳部隊同士の衝突まで有り得ると解説してみせる評論家、外務省は中国旅行者に帰国勧告、しかし北京以外はおおむね平穏だったのだ。協会も後半年の交流が激減したが、「困難な時こそ真の友人が生まれる」とは中国の諺、取えて戒厳下(翌年一月まで)の北京を訪れた人士が、歓待を受けたことは言うまでもない。当局の言うとおり、真正銘の反革命暴乱だったかどうかはともかく、民主化を求めて拡大化した学生運動への対処が、拙劣だったことは確かかなようだ。世間に嫌中ムードが広がる中で、協会は「両国人民間の友好と文化交流の発展を願う創立以来の決意はいささかも変わるものでない」という会長、各代表理事連名の談話を発表した。そして、それは今も変わらない。